

馬術競技の成績集計効率化に「タフパッド」が果たした役割とは

人馬一体となったダイナミックな動きで観る者を魅了する馬術競技。株式会社アルネッツではその成績集計を自動的に行える独自のICTシステムを構築し、集計の効率化・成績発表のスピードアップに大きく貢献している。このシステムのデータ入力端末に選ばれたのがパナソニックの頑丈タブレット「タフパッド」だ。なぜタフパッドでなくてはならなかったのか？ 自身も馬術競技経験を持つアルネッツの担当者・黒川潤氏に訊いた。



株式会社アルネッツ
ハードウェア事業部 係長
黒川潤氏

ハードな競技環境下でのデータ入力端末に課題

馬術競技の成績集計は、従来ずっと手作業で行われていました。審判の横に、セクレタリーと呼ばれる審判のコールした点数を採点用紙に書き込む人がいて、演技が終わるとその用紙を回収。集計室に運んで電卓などで成績を計算しています。審判は通常5人いますし、採点項目も20~40くらいあるので、演技を終えてから成績が出るまでに1時間近くかかることも珍しくない。これでは観客は退屈してしまいますし、選手も自分の成績がわからないので演技の振り返りができません。

そこでアルネッツは、審判席でパソコンなどを使って入力した採点データをクラウドにアップして、自動的に集計するシステムを開発しました。演技終了後、ただちに仮成績が発表されるので、観客からも選手からも大好評。また、選手は、自分より前に演技をした選手の成績を見て演技構成を変えたりするようになったため、戦い方自体にも変化が起きました。

ただし問題もありました。まず晴天の場合、周囲の明るさで画面が見えなくなってしまう。それと、審判席は激しく動き回る馬たちのすぐ目の前にあるため、競技場によっては砂が多く舞うこともあります。採点入力には当初、タッチパネル式の

ノートPCを使っていたのですが、砂が入って動作しなくなってしまいました。また、馬術競技は基本的に屋外で行われる競技。雨が降ると、審判席に屋根があったとしても横から吹き込んでくることもあります。当初はパソコンにトラブルが起きて競技運営に支障をきたすことが頻発し、困っていました。

タフパッド導入後はトラブル発生がゼロに

そこで入力端末として導入したのが10.1型の「タフパッド FZ-G1」です。強力な防塵・防水性能を備えているので、砂埃が舞っていても、雨が降っていても大丈夫。しかも頑丈なので、万が一の落下があっても安心です。液晶の輝度も高く、直射日光下でもしっかりと画面が見える。導入以来、ゲリラ豪雨の中などかなり苛酷な環境でも使ってきましたが、トラブルが発生したことは一度もありません。

最大11時間と、駆動時間が長いのも助かります。ノートPCだとバッテリーが数時間程度しか持たず、競技中、何回もバック

アップ機に交換していましたから。また、SIMスロットを備えているので、ここにMVNOのSIMを挿して、データ通信ができるようにもしています。電源を入れて立ち上げたらいつでもどこでもすぐに通信が可能になるのは大きなメリット。MVNOサービスもパナソニックが提供しているもので、以前、キャリアの通信端末とノートPCを組み合わせ使っていた時よりも大幅にコストが下がりました。

現在はこのタフパッドを用いた集計システムを馬場馬術競技で使っていますが、今後は障害飛越競技や総合馬術競技でも活用することを検討しています。特に総合馬術では自然の中の広大な会場で行われるクロスカントリーが加わり、よりハードな環境になるので、タフパッドは絶対に欠かせません。A



馬術競技の成績集計は、屋外の厳しい環境の中で行われ、直射日光や砂埃、雨風にもさらされる。